

会 議 録

会議名	平成23年度第3回丸亀市総合計画審議会
開催日時	平成23年7月12日(火) 14:00~16:00
開催場所	丸亀市役所 本館2階第3会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p style="text-align: center;">内田 俊英 小野 健一 板倉 真 金 永子 牛島 授公 岩崎 晶典 奥村 素一 篠塚 智枝子 橘 節哉 藤田 登茂子 宮本 喜美代 臼杵 實 北風 智恵実 林 毅 早馬 倫代 大倉 祐樹 佐野 一樹</p> <p>(欠席委員)</p> <p style="text-align: center;">片山 圭之 岩田 理香 砂古 敏之</p> <p>(説明のために出席した者)</p> <p style="text-align: center;">企画財政部長 大林 諭 政策課長 矢野 律 財政課長 横田 拓也 政策課副課長 小山 隆史 政策課 高倉 鋭悟 政策課 真鍋 裕章</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民意見の整理と基礎調査の結果について 2. 今後のスケジュール等について 3. その他
傍聴者	1名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
政策課長	<p>おはようございます。ご案内の時間になりましたので、ただいまから第3回丸亀市総合計画審議会を開会します。本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>議題に入ります前に、委員の皆様へ報告したい事項があります。本委員会の会長でありました香川大学大学院地域マネジメント研究科教授の田中豊委員が、3月の人事異動により委員を辞職しました。後任として、同じく香川大学大学院地域マネジメント研究科教授の牛島授公氏を本日委員に委嘱しましたので紹介します。</p> <p style="text-align: center;">〔牛島授公委員の経歴紹介〕</p> <p style="text-align: center;">〔牛島授公委員の就任のあいさつ〕</p>
政策課長	続きまして、企画財政部長よりご挨拶をお願いします。
企画財政部長	<p>失礼いたします。今日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。本日委嘱しました牛島委員は、数々の行政経験をお持ちですので、その経験の中から丸亀市のまちづくりについて、いろいろと意見をいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>また、前回1月の審議会から、資料等の整理がありましたが、今日まで半年近く間が空いた</p>

	<p>ことをお詫びします。</p> <p>この間の3月11日には、関東東北地方で死者1万5千人以上、行方不明者も5千人近くという甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生しました。我々としましても、1日も早い復旧・復興を願うものであります。また、改めて自然災害の少ない丸亀で生活できることをありがたく感じなければならぬと考えています。</p> <p>さて、総合計画につきましては、合併後の平成18年度に策定し、翌19年度からスタートして本年度が前期基本計画の最終年となっています。この5年が経過する間に、国では政権交代があり、丸亀を取り巻く環境、とりわけ経済環境は大きく変わっています。そして、今回の大震災の復興財源の確保策として子ども手当の廃止などが取り沙汰されていますように、国の制度も大きく変わろうとしており、財政面からもその動向を注視していく必要があります。</p> <p>そのような状況の中で、来年度からの総合計画後期基本計画の策定をお願いしていますが、これまで市民アンケートを行うとともに、新たな試みとして地域別説明会という形で各コミュニティに出向いて意見をいただきましたので、これらの意見もできる限り総合計画に盛り込んでいきたいと考えています。</p> <p>また、人口減少時代を迎えての対策や、先の大震災を教訓とした災害対策など、新たな行政課題への対応を考えていかなければなりませんので、前期計画から大きく変わってくる部分もあると思いますが、できるかぎり様々な意見を出していただき、少しでも元気のある丸亀市のまちづくりの計画としていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。</p>
政策課長	<p>それでは議事に入りますが、さきほどご報告しましたとおり、現在は会長が不在となっています。丸亀市附属機関設置条例第6条第3項の規定により、会長が決まるまでの間は、副会長の橋委員に議事の進行をお願いしたいと思います。</p>
橋副会長	<p>それでは、事務局から説明がありましたとおり、会長不在の間、私の方で議事の進行をさせていただきますので、よろしくお願いします。まず、本日の会議ですが、現在委員総数が20名で17名の出席をいただいております、出席人数が半数を超えていますので丸亀市附属機関設置条例第7条第2項の規定により会議は有効に成立していますことをご報告します。</p> <p>続きまして、会長の選任を議題にしたいと思います。会長の選任につきましては、丸亀市附属機関設置条例第6条第1項の規定により、委員の互選により決定することになっています。ご意見がありましたらお願いします。</p>
北風委員	<p>委員の皆さんもご意見をお持ちでしょうが、事務局の考えがありましたらお願いします。</p>
政策課長	<p>事務局としましては、引き続き学識経験委員であり、豊富な行政経験をお持ちの牛島授公委員にお願いできればと考えています。</p>
橋副会長	<p>ただいまの事務局の案について、ご意見はありますか。</p>
各委員	<p>異議なし</p>

橋副会長	<p>それでは、ご了解もいただきましたので、牛島授公委員を会長に決定します。牛島委員には、会長席にお着きいただき、以後の議事の進行を引き継ぎたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>〔牛島授公委員の会長就任のあいさつ〕</p>
牛島会長	<p>それでは、次第に従いまして議事に入ります。まずは、(1)市民意見の整理と基礎調査の結果について事務局より説明をお願いします。</p>
政策課真鍋	<p>〔【資料1】に基づき説明〕</p>
政策課副課長	<p>〔【当日資料】及び定住自立圏構想について補足説明〕</p>
牛島会長	<p>ただいまの事務局の説明に関しまして、ご質問等がありましたらお願いします。</p>
岩崎委員	<p>P18の「人口及び世帯数」の合併前の数値は、旧丸亀市の数値ですか。</p>
政策課真鍋	<p>合併以前については、旧丸亀市・旧綾歌町・旧飯山町の数値を合算して記載しています。</p>
岩崎委員	<p>同じ資料の平成17年から平成22年にかけて、世帯数は2300世帯くらい増えているにもかかわらず、人口の増加は400人不足です。これはどういうことですか。</p>
政策課副課長	<p>これは核家族化の進展が顕著であることを表しています。例えば、香川県全体で見た場合、平成22年はすでに人口は減少に転じていますが、世帯数は過去最高となっています。</p>
小野委員	<p>P39に「急速に高まる安全・安心への意識」とありますが、有事の際に想定外ということにならないよう、総合計画の中でも、危機管理をどうするかを考えておくことが重要であると思います。</p> <p>国の政策としては、個人単位で進んでいるように感じますが、実際に災害が起きたときには、個人での対応には限界があり、家族や地域などもっと大きい単位で対応するという認識が必要であると思います。総合計画の中では、詳細までは決められないにせよ、危機管理についての項目は含めておかなければならないと思います。</p>
政策課副課長	<p>前期基本計画では、新消防庁舎の建設や防災行政無線の整備などハード面での成果が上がっています。</p> <p>これからは、地域との連携や体制作りなどソフト面が重要になってきますので、そのような点を、何らかの形で後期基本計画に反映させていきたいと考えています。</p>

白杵委員	<p>安全・安心については、ハード整備など費用をかければ、ある程度できてしまう面がありますが、財政の厳しい折に、いくらでも費用をかけられるわけではないと思います。</p> <p>東日本大震災でも、コミュニティや自主防災組織など地域の力を生かして、訓練や啓発を徹底して行っていたところは小さい被害で食い止められたという話を聞きますので、そのようなところに力を入れて、補っていく必要があると思います。</p>
奥村委員	<p>市の水防計画の中で、避難所やその収容人員などが決められていますが、例えば、私の住む地域では、避難所の収容人員が地区の世帯数をも下回っています。これでは全世帯が避難するような状況には対応できません。</p> <p>防災については、このような基本的なところから見直して欲しいと思います。</p>
企画財政部長	<p>これまで香川県は災害が少なく、少し災害に対する意識が低かったのではないかと感じています。今回の東日本大震災を教訓として、確実に意識が変わってきていますので、その大きな意識の変化を、総合計画の中で示していかなければならないと考えています。</p>
内田委員	<p>P21にある年齢階層別人口割合のグラフは、平成12年と平成17年の数値となっていますが、少し古いデータになりますので、より直近のデータは出せませんか。</p> <p>あと、当日資料の地域別説明会での各コミュニティでの意見の数にかなりのばらつきがありますが、何か開催条件に違いがあったのですか。なぜこのような結果になったのか事務局の考えを聞かせて欲しいと思います。</p>
政策課副課長	<p>年齢階層別人口割合のグラフは、国勢調査を元に作成しています。平成22年の国勢調査については、現時点では人口の速報値しか出ておらず、年齢階層別人口については、秋以降に公表される見込となっています。ただし、少し条件は異なりますが、住民基本台帳を元にしたものであれば、直近のデータを出すことは可能です。</p> <p>地域別説明会の開催については、各コミュニティの希望を聞いて日時を設定しており、テーマも定住促進に統一して行っていますので、その点ではどこも条件は同じです。今回は、説明会とその後提出された意見をまとめた結果、地域ごとにこのようなばらつきが出ましたが、それぞれ参加者も異なりますので、このような結果になったと受け止めています。</p>
林委員	<p>今回の資料には、現在の状況が書かれていますが、これらの状況を市はどう判断しているのか、あるいは、その状況を踏まえて市の考えている方向性や方針はどうかということを示さないと議論できないと思います。例えば、人口の状況を見て、人口を減らしてはいけないと考えるか、人口は減っても構わないと考えるかで、政策や戦略も異なってくると思います。議論を深めていくために、市としての切り口を示して欲しいと思います。</p>
牛島会長	<p>P37からの「時代の潮流と本市に及ぼす影響」に少し書かれている部分もあります。</p>
政策課長	<p>今回の資料では、市の考えを示す前段階として、様々な市民意見や統計的な数値を基礎的な</p>

	<p>資料として提供しました。</p> <p>今回は、議論を深めていくために、市の考えや方向性なども示したいと考えていますので、よろしくお願いします。</p>
林委員	<p>確かにP37以降に書かれていますが、その内容は、少子高齢化などをマイナスイメージだけで捉えているようで、後ろ向きの考えという感じを受けました。少子高齢化といってもマイナス面ばかりではないと思います。</p> <p>一見マイナスイメージのものをどうプラスに転じていくかが、まちづくりには大切であると思います。次回以降に楽しみにしています。</p>
内田委員	<p>参考までに、これまでの右肩上がりの時代は、総合計画は作る計画でしたが、これからの時代は、総合計画はやめる計画にしなければならないという考え方もあるようです。</p>
小野委員	<p>大きな視点となりますが、先人の世代が整備した社会資本を受け継いで現在があるように、今を生きる我々の世代も、後世に社会資本の整備を残していかなければならないと思います。</p> <p>財政が苦しいときですが、儉約だけではなく、将来に向けての投資という考え方も必要だと思います。</p>
企画財政部長	<p>10年間の総合計画としては大きな方向性の転換はありませんが、これから5年間の後期基本計画の中では、防災や少子高齢化の対策を盛り込むなどの時代の潮流に合わせた修正を加えなければならないと考えています。</p> <p>また、後世に残していくものはハード面だけでなくソフト面からも考えられますし、今後5年間でハードとソフトのどちらを充実させていくか様々な考え方があると思います。</p> <p>委員の皆さんからの意見は大変参考になるものばかりで、我々の資料が少し足りなかったのではないかと申し訳なく思いますが、次の段階からは、市の考え方等も示した上で、もっと細かく具体的に後期基本計画の中に盛り込む内容について議論することになりますので、さらにいろいろな意見を出していただき、計画に反映させていければと考えております。よろしくお願いします。</p>
政策課副課長	<p>〔平成23年6月の人口ピラミッドに基づく年齢階層別人口割合のグラフについて説明〕</p>
金委員	<p>市民意見については、多種多様な意見が出ていますが、これを今後どのように活用しようと考えていますか。また、各部署に伝える予定はありますか。</p> <p>あと希望として、人口関係の資料では、国勢調査を用いているものと住民基本台帳を用いているものがありますが、住民基本台帳には外国人は含まれていないので、外国人登録と合算して数値を提示するなどの手法を考えて欲しいと思います。この計画の中に外国人も入っているということを十分に意識して、これからの調査や計画策定に生かして欲しいと思います。</p>

政策課副課長	<p>それぞれ市民意見については、情報として各所管課にも伝えます。この市民意見は自由意見になりますので、計画策定の参考にすべきものであると考えています。</p> <p>また、これ以外にアンケートの結果がありますので、市民意識についての大きな傾向としては、そのアンケート結果から掴めるものと考えています。あと、資料となるデータは、基本的には外国人を含む国勢調査を参考としたものから作成するようにしていますが、住民基本台帳を参考とする場合は、外国人の取り扱いを十分に意識して用いるようにしたいと思います。</p>
林委員	<p>数年前から地産地消というキーワードをよく聞くようになりました。良い言葉だと思いますが、丸亀市でどれくらい地産地消ができていのか分かるような数値はありますか。</p>
政策課副課長	<p>例えば、学校給食に限定すれば地産地消率という数値で把握しています。しかし、確認しないと分かりませんが、丸亀市全体となると難しいと思います。</p>
小野委員	<p>計画の基本には財政があると思いますので、短期間で景気に左右される不透明な部分はあるにしても、後期5年間の財政計画について示す必要があると思いますが、どう考えていますか。</p>
企画財政部長	<p>合併後から総合計画と並行して財政の長期計画についても作成しています。今は財政健全化計画として、年2回改定し公表していますので、これを総合計画にリンクさせていかなければならないと考えています。</p> <p>ただ、5年間の財政の見通しを示すことは非常に難しい面があります。例えば、支出については、合併特例債の償還等は、積み上げて計算できますので、比較の見通しは立て易いのですが、収入については、景気の動向や税制改正など見通しの立てにくい要因が多くありますので、今ある財政計画を、その都度修正しながら示していきたいと思います。</p>
牛島会長	<p>その財政計画については、参考として見られるものはありますか。財政状況によって、総合計画に盛り込める内容も変わるとしますので、できるなら参考資料として出して欲しいと思います。</p>
企画財政部長	<p>次の機会には、合併後から現在までの丸亀市の財政状況や将来的な財政の見通しについても資料を示して、説明したいと思います。</p>
北風委員	<p>これからの時代を背負っていく子どもたちのことになりますが、丸亀市では今年、学校の教室にエアコンが整備されるなどハード面での教育環境は良くなっていると感じる一方で、ソフト面が充実しているかどうかには不安を感じます。</p> <p>例えば、退職された教員にも素晴らしい方が多く居りますので、退職した方でも教育に携わり、その知識を生かせるような環境づくりができれば、子どもたちと高齢者の交流もできます。そのような教育を充実させるとともに世代間を繋ぐような施策を考えて欲しいと思いますが、皆さんはどう思われますか。</p>

<p>政策課副課長</p>	<p>今の意見は重要な視点であると思います。学校教育を、地域など様々な方面と連携を取りながら進めていくことが、これからは大切になると思います。</p> <p>今回の総合計画の策定にあたりまして、中学生によるワークショップを企画しています。これは、若い世代からの意見を総合計画に反映させていくと同時に、中学生に、学校外でいろいろな経験をしてもらう良い機会になると考えています。</p>
<p>佐野委員</p>	<p>市民意見を見ている、お金がかかるような要望が多いと感じます。財政が厳しい中で、すべてのことに一度に取り組みすることはできないと思いますので、どこを捉えて優先して取り組む事項が決まるのですか。</p> <p>また、財政との関係はどうなりますか。</p>
<p>政策課副課長</p>	<p>この市民意見については、自由意見ですので、バラエティに富んだ意見が出されており、参考とはしますが、あくまでも1つの視点として捉えることに止めたいと考えています。</p> <p>施策や事業の優先順位については、アンケート結果等で大きな傾向を掴んでおりますので、それらを軸として、全体的な流れの中で考えていく必要があると思います。</p> <p>また、財政につきましては、その収まる範囲内での計画にしていかなければならないと考えています。</p>
<p>大倉委員</p>	<p>例えば、公園の整備に関しては、行政評価ではA評価になっているにもかかわらず、市民意見の中では多くの要望が出されています。このような市民と行政の受け止め方の差についてはどう考えていますか。</p>
<p>政策課副課長</p>	<p>行政評価については、指標となる数値目標に対してどの程度達成できたかにより評価していますので、直接市民満足度が測れるものではありませんが、このような行政と市民の受け止め方に差を埋められるように、計画に反映させていかなければならないと思います。</p>
<p>牛島会長</p>	<p>市民意見に出ているから取り組む、出していないから取り組まないというのではなく、それらも踏まえて、全体的に考えていくことが、これからの総合計画をまとめていくという作業になると思います。</p>
<p>板倉委員</p>	<p>定住自立圏構想について、参考までに、これからどのように進んでいくのか教えて欲しいと思います。</p>
<p>政策課副課長</p>	<p>7月1日に中心市宣言を行いました。次に周辺市町と1対1で広域的な取り組みについての定住自立圏形成協定を結びます。その後、協定によって形成された圏域において目指す将来像や具体的な取り組みなどを盛り込んだ定住自立圏共生ビジョンを策定することになります。予定としては、今年度中に協定締結にかかる議会の承認を得て、来年度に共生ビジョンの策定に取り掛かると考えています。</p>

牛島会長	他に意見等もないようですので、次の議事に移ります。(2)今後のスケジュール等について事務局より説明を求めます。
政策課副課長	〔【資料2】に基づき説明〕
牛島会長	ただいまの説明に対してご意見ご質問はありませんか。
内田委員	総合計画の策定は、自治体によって様々な手法がありますが、我々委員は、このような形で総合計画策定のテーブルに着くことができています。せっかくの機会ですので、偉大なる素人として事務局の常識を覆すような意見を出し、活発に議論していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。
企画財政部長	<p>とりあえずのスケジュールは示しましたが、議論の深まり具合によっては、もう少し議論の機会を増やさなければならないかもしれないと思います。</p> <p>これから作る後期基本計画に基づいて、毎年度、実施計画や事業を積み上げていくようになります。これからは、計画を作っただけで終わらせるのではなく、その後の進行管理を十分に行える計画にしなければならないと考えていますので、皆さんの意見もできる限り盛り込みながら、時代の変化によっては修正も加えられる実効性の高い計画を策定できるよう、いろいろな意見をいただければと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>あと、さきほどの定住自立圏構想については、より多くの方に知って欲しいと考えておりますので、概要について、再度説明したいと思います。</p>
政策課副課長	〔定住自立圏構想について説明〕
牛島会長	ありがとうございました。それでは、議事の(3)その他について、事務局から何かありますか。
政策課副課長	<p>次回の会議につきましては、9月頃を予定しておりますが、計画のたたき台を示して、より細かな議論に入りたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。また、本日の議事録につきましては、公表前に確認していただきますので、何かありましたら事務局までご連絡ください。</p>
牛島会長	以上で今日の議事は、すべて終わりました。これで第3回総合計画審議会を閉会します。